





# 東北 支社篇

## 心をつなぎ未来に結ぶ

### 不毛の大地を緑豊かな大地に 「小岩井農場」

1891(明治24)年に開設された小岩井農場は、共同創始者である小野義真(日本鉄道副社長)、岩崎彌之助(三菱社社長)、井上勝(鉄道庁長官)の頭文字がその名の由来。不毛の原野を緑豊かな大地へと変えるべく、約3000ha(東京ドーム640個分)の広大な敷地で作物をつくり、植林を行い、開拓を進めていった。1899(明治32)年からは畜産を軸とした経営に移行。海外から輸入した優良種畜をもとにした種畜(牛馬)の生産供給事業を開始すると同時に酪農事業にも着手、日本の乳用種牛の改良と乳業事業の発展に大きく貢献した。時は流れ、昭和30年代には種鶏事業を本格化。昭和40年代には観光事業、環境緑化事業などを開始し、現在の礎を築く。その後も小岩井農場は一貫して農林畜産業を基軸とした運営を継続。100余年を経た今、不毛の原野は創始者の3人が夢見た、緑の大地へと生まれ変わり、日本最大の民間総合農場として我々の「食」に貢献するばかりか、岩手県を代表する観光施設として人々の潤いあふれる暮らしに貢献している。より深く小岩井農場を知りたいという人には豊かな自然を満喫しながら場内を巡る「トラクターライン」で行く自然満喫ツアーをおすすめしたい。詳しくはホームページにてご確認ください。



トラクタートレイン



釜定工房三代目の宮伸穂氏

### 400年の伝統に新たな息吹を 「釜定工房」

江戸時代から400年以上にわたり受け継がれてきた、岩手県を代表する伝統工芸・南部鉄器。昔ながらの製法にこだわる数少ない工房のなかでも、伝統とモダンが調和した作品に国内外から注目されているのが釜定工房だ。三代目の宮伸穂氏は、金沢美術工芸大学、東京芸術大学大学院で、モノづくりやデザインを幅広く学んだ異色の経歴を持つ職人であり、日本クラフト展77優秀賞、岩手茶道美術工芸展グランプリほか受賞歴も多数。そんな宮さんの手がける南部鉄器は受注に製造が追いつかず、半年から1年待ちという状況が続いている。「鉄は丈夫で長持ち。いい材料でしっかりとつくった鉄器は一生物どころか親子三代にわたって使うことができる。何十年も先を見据えたモノづくりをしているんです」と、その魅力を語る宮さん。そんな南部鉄器を未来へ伝えたいからこそ、変えていかなければいけないこともあるという。「職人の技は、見て盗むといいますが、それは教える側が技術を科学的に解析できていないだけ。夜明けから日没まで働いて、一人前になるのに何十年もかかるんじゃないですか。必要なんじゃないですか」。日本古来の南部鉄器に新たな息吹を吹き込んだ宮さんの「革命」は続く。



奥に見えるのが一号サイロと二号サイロ

### 酪農の歴史を現代に伝える 「21棟の重要文化財」

小岩井農場の歴史は、日本の畜産酪農の歴史といっても過言ではない。偉大な先人たちは生産技術や生産工程を試行錯誤しながら、日本の食文化のさらなる発展に貢献してきた。そんな小岩井農場には、明治末期から昭和初期にかけて建設された建造物が今もなお現存する。そのうち21棟の施設は国指定の重要文化財に指定され、畜産酪農の歴史を今に伝える「生きた資料」となっている。なかでもひとときわ目を引くのが、隣り合うように建つ「一号サイロ」と「二号サイロ」。それぞれ明治40年と41年に建設され、青草を食わせることができないう冬場の家畜の飼料を確保するため「サイレージ」という発酵飼料をつくる施設として利用された。現存する日本最古のサイロといわれる。小高い築山のような「天然冷蔵庫」にも思わず目を奪われる。明治38年に小山を掘ってつくられた貯蔵庫で、電気のない時代に主に乳製品の冷蔵に使用された。なお、これらの施設はガイド付きのツアーで見学することができる。長年の風雪に耐えてきた歴史の重みを肌で感じてはいかがだろうか。

### 東北の多彩な祭を一堂に 「東北絆まつり」

東日本大震災で亡くなった方々の魂を弔い、東北復興の願いを込めて2011年から始まった東北六魂祭。2016年に、その名の由来となった仙台、福島、山形、盛岡、秋田、青森の6市を巡ったことから、2017年、東北をさらに熱い絆でひとつにするべく「東北絆まつり」として生まれ変わった。記念すべき第一回開催地は、東北六魂祭と同じく仙台。2017年6月10・11日の2日間わたって開催され、両日の来場者総数は45万2千人にのぼった。東北六魂祭と同じく、東北絆まつりの魅力はなんといっても全国に名だたる東北の6つの祭(仙台七夕まつり、福島わらじ祭、山形花笠まつり、盛岡さんさ踊り、秋田竿燈まつり、青森ねぶた祭)を一度に楽しめること。個性豊かなそれぞれのパレードが通るたび、沿道を埋め尽くした観衆から大きな歓声が沸き上がった。東北の地で、まさに人々の絆が深まった瞬間である。この東北絆まつりとともに、東北の元氣と活気が末長く続くことを願ってやまない。





～ ミッション遂行の軌跡 ～

# 縦の移動を司るエレベーターを、 上質な“おもてなし”の空間に。

より安全に、より快適に、絶え間ない進化を続けてきた三菱エレベーター「AXIEZ」。東京2020オリンピック・パラリンピックまであと3年。三菱電機では、海を渡って訪れる多くの外国の方々へより上質な移動空間を提供するため、AXIEZに新たな価値をプラスした。それが、日本ならではのホスピタリティ＝おもてなしの具現化。社会のなかで縦の動線を司るエレベーター。その随所に盛り込まれた、乗る人をもてなすための工夫とは――。4人の開発メンバーが、新AXIEZの開発秘話を語る。



東北支社の私たちがご案内します!  
ビルシステム部 昇降機課 中澤 城  
ビルシステム部 営業技術課 佐々木 るみ奈



## 日本三景「松島」

仙台周辺の観光地といえば、日本三景のひとつにも数えられる「松島」をいちばんに挙げなければならぬでしょう。仙台駅から最寄りの松島海岸まで車で約30分という好アクセスも魅力です。そんな松島周辺のおすすめスポットを、東北支社の中澤と佐々木がご案内します！



## ◎観光船

岸からの眺めも素晴らしい松島ですが、せっかくなら松島湾内を観光船で巡ってみてはいかがでしょうか。松島湾からは定期大型船のほか予約制の中型・小型船などが出ており、仁王島、鐘島、千貫島、雄島、双子島といった松島湾内の島々を間近で見ることが出来ます。



## ◎瑞巖寺

美しい松島の風景を満喫したあとは、瑞巖寺でこの地の歴史の奥深さを味わっていただきたいと思えます。平安の初めに開創されたこの寺は仙台の英雄・伊達政宗とゆかりが深く、伊達家の領内で随一の規模と格式を誇ったといえます。現存する本堂・御成玄関・庫裡・回廊は国宝に指定され、御成門・中門・太鼓塀は国の重要文化財に指定されています。

気さくなご主人と女将さんも魅力です!



## イチオシ松島グルメ

松島周辺の知る人ぞ知る名店が「はせくら茶屋」さん。僕たちのおすめは、旬の魚介類が盛りだくさんの海鮮丼と、タレの味が絶妙の穴子丼です。どちらも大満足間違いなし!

## ◎円通院

伊達政宗の嫡孫、光宗の菩提寺として正保4年に建立され、三慧殿は別名御霊屋とも呼ばれています。東北地方では数少ない格式ある方三間霊屋の遺構で、光宗の霊廟である三慧殿は「円通院霊屋」の名で国の重要文化財に指定されています。この円通院では数珠つくり体験をすることが出来ます。お越しの際は、あなただけの数珠をつくってみてはいかがでしょうか。



多くの人の役に立つ昇降機をカタチにしていきたい

佐々木 私と中澤くんは2015年入社で、お互いに生まれも育ちも関東。初めての東北、初めての一人暮らし、初めての社会人生活で最初は大変な面もありましたが、入社から2年が経って少しずつ仕事にも慣れてきました。とくに印象に残っているのは、エレベーターの扉のデザインを提案して、それが採用されたこと。自分のアイデアがカタチになる喜びを実感しました。

中澤 それが昇降機に携わる醍醐味ですよ。自分が手がけたわけではありませんが、2015年に開業した仙台市地下鉄東西線仙台駅のエスカレーターは三菱製です。僕も自分の仕事がかたたちになる喜びをかみしめながら、多くの人の役に立つ仕事をたくさん手がけられたらと思っています。



## 三菱電機東北支社

地域に密着し、東北の復興・発展に貢献。

三菱電機東北支社は東北6県（一部新潟県含む）内の全5拠点で、電力・FA・配電制御機器、社会インフラ・交通、昇降機・ビルシステム、セキュリティー、通信、映像情報などを取り扱っております。さらに、グループ会社・販売代理店と連携し、幅広い製品・事業を展開中です。今後も地域に密着し、東北の復興・発展に貢献することを目指してまいります。

宮城県仙台市青葉区花京院1-1-20(花京院スクエア10F) TEL 022-216-4511

## 私たちに相談ください!

東北地区:総代理店  
三菱電機ビルテクノサービス株式会社  
東北支社 昇降機営業部  
宮城県仙台市青葉区花京院1-1-20(花京院スクエア)  
TEL:022-216-4592

- 小岩井農場 岩手県岩手郡雫石町丸谷地36-1 TEL 019-692-4321
- 釜定工房 岩手県盛岡市紺屋町2-5 TEL 019-622-3911
- 瑞巖寺 宮城県宮城郡松島町松島字町内91 TEL 022-354-2023
- 円通院 宮城県宮城郡松島町松島町内67 TEL 022-354-3206
- はせくら茶屋 宮城県宮城郡松島町松島町内47 TEL 022-354-6522





スピード感を持つて取り組んだプロジェクト。

三菱電機(株) 開発部 インタフェース開発課 中野 雄介

### 2020年の「東京を」見据えて

新しい「AXIEZ」が掲げる、おもてなしのコンセプトには3本の柱がある。そのひとつが「Comfort」。乗車人員が定員未満の場合や誰も乗っていないときにスピードアップし、待ち時間を短縮する「スーパー可変速システム」を採用(有償付加仕様)。これにより、平均速度が最大47%向上するとともに、待ち時間は最大22%、乗車時間は最大33%短縮することを可能にした。もうひとつが「Ecology」。毎日乗るものだからこそもおもてなしの「一環」と捉え、天井をはじめ全照明のLED化を実現。さらには、かこ室とおもりのパランスを最適化し、待機時のムダな電力をカットすることで、基本仕様で最大20%(従来比)の省エネを達成している。

そして、AXIEZに盛り込まれた、おもてなしのハイライトともいえるのが「Universal Design」だ。建築業界をはじめ多くの世界に根付いている、誰でもわかりやすく、誰でも使いやすい、というユニバーサルデザインの概念を、エレベーターでどのように具

現化したのか。まずは、プロジェクトの取りまとめ役を担った中野に開発の経緯を聞いた。

「2011年に現行のAXIEZがリリースされてから5年が経過した昨年の夏、そろそろリニューアルの時期ではないかという話が持ち上がったんです。ちょうど昨年2月に三菱電機はエレベーターカテゴリにおけるオフィシャルパートナーとして東京2020スポンサーシップ契約を締結させていただきましたので、この2020年に向けて何かできないかと。そこで、開発方針に定めたのが日本を象徴するホスピタリティをおもてなしでした。」

2016年11月に固まった、エレベーターにおもてなしの心を、というコンセプト。リリース予定は2017年6月。限られた時間のなかでできることは何かを模索したプロジェクトチームは、前述の通り大きく3つの柱を打ち立てた。このうち、待ち時間を短縮する「Comfort」に省エネ性を高める「Ecology」に関してはこれまでも常に取り組んできた課題であり、業界をリードする三菱電機の得意分野ともいえる領域。

一方で、おもてなしの核を成す



技術者たちの熱い想いをお客様へPRしたい。

三菱電機(株) 技術部 エレベーター設計課 谷口 愛弓

です。さらにオプションのプレミアムウォールでは、立体的な縫製で生地にも厚みを持たせ、より深みのある内装が演出できるようにしました。」

### ワクワクするエレベーターを

開発方針の決定からリリースまでわずか半年というスパンで、技術者のおもてなしの心がぎざぎざつまった新AXIEZは完成した。日ごろから営業サイドと開発サイドとの橋渡しとなり、当プロジェクトにおいてもその一部始終を見守り続けてきた谷口は、感慨深げにこう振り返る。

「いつもマーケティングやヘルプデスクなどを通じてさまざまなお客様の要望を伺っているのですが、今回のAXIEZは時代のニーズに応じたものになっており、営業サイドとしてもお客様へ提案しやすいものになったのではないのでしょうか。この新しいAXIEZに国内外のたくさんの方々が乗ることを楽しみにしています。」

最後に、4名の開発メンバーひとりひとりに、今回のプロジェクトを通じて得たものを語ってもらった。

中野：このようなプロジェクトの取りまとめ役を任されるのは初めての

「Universal Design」については、社内はおろか業界でも初の試みに挑んだ。それが、アナウンスとインジケータ表示の4言語化である。この開発を担当した久保山に、その概要を聞いた。

### ストップウォッチを手に検証

「通常時のドアが閉まります」というようなアナウンスとインジケータ表示は日本語と英語の2カ国語で、地震など緊急時は中国語と韓国語を加えた4カ国語でアナウンスおよび表示をします。ちなみに、4カ国語でのインジケータ表示は日本語・英語・中国語・韓国語の順で3秒おきに切り替わります。」

4カ国語でのアナウンスやインジケータ表示は、決して技術的に難しいことではない。しかし「ただアナウンスするだけ、ただ表示するだけ」では、肝心の、おもてなしにはならないのだ。久保山が苦心したこととは――。

「最も頭を悩ませたのは、緊急時にどんな言葉でアナウンスするかということでした。エレベーターの動きに合わせてアナウンスを開始し、4言語分すべてを伝えなければならない一方、シンブルかつ乗客が聞き取りやすい音声、



三菱らしさをデザインで表現できる技術者に。

三菱電機(株) 開発部 意匠開発課 石田 敬

速さでなければ意味がありません。録音した音声を送り流してみても、どうかという検証もしましたが、結果はNGでした。」

緊急時にしっかりと内容を把握できる言葉で、かつムダを削ぎ落としつつ、日本語から韓国語までの4カ国語をアナウンスし終える。それを実現するため、久保山はストップウォッチを手にエレベーターと向き合った。

「エレベーターの動作に合わせて適切なタイミングと長さでアナウンスするために、秒単位での検証が求められました。また、インジケータの表示ともリンクさせる必要があります。限られた時間内で、いかに正確かつわか



ビル全体のなかで昇降機に求められるものとは。

三菱電機(株) 開発部 管理システム開発課 久保山 祐紀

りやすく伝えるか、という点に、最も苦労しました。」

4カ国ガイドに加え、ユニバーサルデザインのもうひとつのトピックが、目の不自由な方への配慮。新しいAXIEZは「NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構」の認証を取得。色覚の個人差を問わず、多くの人に見やすく使いたいと認められている。たとえば、色弱者の方でも見やすい液晶インジケータ。視認性の高い表示と矢印のアニメーションで、エレベーターの動きをわかりやすく伝える。同様にSOSボタンも色弱者の方が黒に見えてしまうという濃い赤から朱色に近い赤に改めた。また、文字に凹凸を設け指先で数字を認識することができ、行先階ボタンも従来から受け継がれている。このようなきめ細やかな心配りも、中野の言う「日本を象徴するホスピタリティ」おもてなし」なのである。

そんなAXIEZの、おもてなしのコンセプトは、かこ室の内装にも及んでいる。注目していただきたいのは、色鮮やかなカラーリングを基本仕様に加えた塗装色。プロジェクトの意匠面を担当した石田に解説してもらおう。

## Universal Design AXIEZは、誰にもやさしいエレベーターをめざして。

**カラーユニバーサルデザイン認証を取得**

この「三菱機械室レス・エレベーター AXIEZ」は色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮して作られていると、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により認証されています。

■色弱者の方でも見やすい液晶インジケータ

2017-05-31 13:30

■目の不自由な方でも押しやすい凸文字ボタン

**4カ国語ガイドによるアナウンスと液晶インジケータ**

通常時
<p><b>アナウンス</b></p> <p>2カ国語:日本語→英語</p> <p><b>液晶インジケータ</b></p> <p>2カ国語:日本語・英語を同一画面にて表示</p>
緊急時
<p><b>アナウンス</b></p> <p>4カ国語:日本語→英語→中国語→韓国語</p> <p><b>液晶インジケータ</b></p> <p>4カ国語:日本語・英語→中国語(簡体字・繁体字)・韓国語を3秒間で画面切替えて表示</p>

※1 多くの方が見やすいように、インターホンボタン、開くボタン、かこ内液晶インジケータの色に対して、カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)の認証を取得しています。  
 ※2 ボタンおよび液晶インジケータは、屋内におけるエレベーターを基準として、周囲照度600Lx以下(10Lx~600Lx)での使用に限定。 ※3 インターホンボタンは、聴覚障がい者対応仕様を除く。





海外の技術者に聞きました

# エレベーターのお国柄

4カ国語ガイドによるアナウンスと液晶インジケータを標準装備し、海外の方への“おもてなし”をさらに深めたAXIEZ。そこで今回のUser's Voiceでは、海外の三菱電機グループで昇降機の製造に携わる技術者の方にお集まりいただき、自国のエレベーターの特徴や日本との比較、さらには自らが手がける「三菱エレベーターのすごいところ」などを語り合っていました。エレベーターを通じてお国柄が垣間見える、興味深い座談会の模様をお届けします。



## 稲沢製作所の工場に密かに進む 新AXIEZのデザイン開発現場に潜入!

すべての人へのやさしさを追求したユニバーサルデザインや、基本仕様にかつてないカラーを取り入れた内装など、新境地を見出した「AXIEZ」。その開発は、稲沢製作所の工場の一角でひっそり行われていました。今だから公開できるリリース前の貴重な開発風景とともに、意匠に込めた技術者の熱い想いをレポートしました!



### 工場内でひととき目立つカラフルなモックアップ

そのカラフルなモックアップは、広大な工場内ですぐに目に飛び込んできました。新しく基本仕様に採用されたライムグリーンやキャロットオレンジのカラーリング、素材感あふれる木目調などの面材やプレミアムウォール仕様のかご室など、意匠開発を担当した石田の「ワクワクするようなエレベーターを」という想いを、まさに体現するものでした。もうすぐ、こんなエレベーターを街中で見かけるようになるのかと思うと、私たちまでワクワクしますね!



### 押し心地・触り心地に徹底してこだわったかご操作盤



中野さんにご案内いただいたのは、目の不自由な方に配慮されたカラーユニバーサルデザイン仕様のかご操作盤。スマートフォン等でタッチパネル式の操作盤が普及するなか、あえて凹凸のあるボタンを従来より受け継いだ新AXIEZ。わざわざ操作盤の部分だけを抜き取ったモックアップからは、ボタンの押し心地・触り心地を徹底的に検証した開発者たちのこだわりが垣間見えます。





# 三菱を採用したお客様は次も三菱を選んでくださる。このリピート率の高さが私たち技術者の誇りです。



三菱エレベーターアジア社 (AMEC)  
AUKSON SANGAON  
品質管理担当

三菱エレベーターアジア社 (AMEC)  
PHICHET CHAEKRATHOK  
生産技術担当

三菱電機メキシコ社 (MELMEX)  
RAQUEL RODRIGUEZ JUAREZ  
配電盤組立担当

三菱電機メキシコ社 (MELMEX)  
FEDERICO PAZ VILLEDA  
機械板金担当

三菱電機メキシコ社 (MELMEX)  
JOSE LUIS HERNANDEZ TROCHE  
溶接担当

台湾三菱電機股份有限公司 (TMCE)  
簡茂宇  
品質管理担当

広東三菱電機有限公司 (GDRLE)  
王松  
機械板金担当

広東三菱電機有限公司 (GDRLE)  
刘建忠  
溶接担当

三菱電機上海機電有限公司 (MESE)  
金立人  
機械板金担当

韓国三菱エレベーター株式会社 (KMEC)  
姜元求  
営業技術担当

今回お集まりいただいたのは、福沢製作所で開催された「第41回技能競技大会」に海外のグループ会社から参加した技術者のみなさん。日々の仕事で磨き上げた優れた技術で、各社の代表に選ばれた方々です。日ごろから昇降機の製造に携わっているだけに、エレベーターに対するこだわりも並々ならぬものがあります。そんなみなさんが自国、日本、そして三菱のエレベーターについて本音で語り合った今回の座談会。大会直前という緊張感の高まるタイミングにもかかわらず、和気藹々と意見交換をしてくださりました。

## 意匠面に現れるエレベーターのお国柄

— 最初に、みなさんの国のエレベーターの特徴を教えてくださいませんか？  
PHICHETさん タイのエレベーターは、いろいろな面でスピードが遅いように感じます。昇降速度もそうですが、たとえばドアを開けたいときにボタンを押しても開くまでに時間がかかったり。急いでいるときなんかは、ちょっとイライラしてしまうこともあります(笑)。

JOSEさん メキシコでは高い建物が少ないので、地域によってはあまりエレベーターが普及していません。だから、エレベーターの使い方、乗り方を知らない人もいます。そういう人のために、使い方や乗り方をアナウンスし

り心地の良さに感動しました。それと、きれいで清潔感があることも素晴らしいと思います。  
簡茂宇さん 台湾のエレベーターと比べて印象的だったのが、かご室内の明るさです。台湾ではもう少し照明を落とされているのが一般的です。どちらがいいということではありません。明るいほうがいいケースもありますし、暗めの照明が味わいにつながるケースもありますからね。

金立人さん 私も同じように感じました。上海のエレベーターも、もう少し暗いように感じます。照明の明るさも日本特有のものかもしれませんね。  
FEDERICOさん 私がたまたま乗ったエレベーターは、ドアの開閉ボタンが漢字で示されていたんです。もちろん、日本でも多くのエレベーターは漢字ではなく矢印で示されていると知っているのですが、漢字表記は外国人にはわかりにくいなと思いました。

— そんな外国人の方のために、新しいAXIEZでは4カ国語ガイドによるアナウンスと液晶インジケーターを標準装備しました。このような工夫をどのように感じられますか？  
刘建忠さん 乗る人の立場で考えた、とても親切なアイデアだと思います。今後、こういったサービス重視の機能を入れてほしいですね。  
王松さん 素晴らしいと思います。私は2回目の来日なのですが、以前、日

てくれるエレベーターがあるのいいなと思っています。

FEDERICOさん 意匠面ということで、メキシコではシンプルなものが多くありません。かご室の壁面はほとんどがステンレスで、意匠面の演出も鏡が貼られているくらいです。一方で、木目調の内装なども好まれる傾向にあります。最近では天井にLEDライトを導入したタイプも出てきており、都市部ではエレベーターもどんどん進化してきています。

AUKSONさん タイの高級なホテルやレストランでは、ガラス張りのエレベーターをよく見ます。かご室内からの眺望を楽しんでもらうための演出ですね。

金立人さん 上海のエレベーターも、最近では揺れや騒音が少なくとても乗り心地がよくなりました。とくに上海中心の超高速エレベーターは世界的に見ても最新鋭です。意匠面ではメキシコと同じくステンレスのシンプルな内装をよく見ますが、施主さんの好みで内装をアレンジするケースも多いですね。

刘建忠さん 中国のエレベーターも日本とあまり変わらないと思います。ただ、古いものはやはり揺れや騒音が激しいですね。

簡茂宇さん 台湾のエレベーターは、マンション用とオフィス用で好まれる内装が極端に異なるように感じます。マンション用では木目調の化粧板を用いた

本地下鉄に乗ったときに中国語の案内があつても助かったことを覚えていて、多くの外国人が、新しいAXIEZに乗って同じような安心感を覚えるのではないのでしょうか。  
金立人さん 私も素晴らしい工夫だと思います。上海も国際的な都市ですので、海外からたくさんの方々が訪れる。私達の国にもこのようなエレベーターが普及してくれたらうれしいですね。

## 素晴らしい仲間も私たちの自慢です

— 三菱電機グループの技術者として「三菱エレベーターのことがすごい」と思うのは、どんなところですか？  
PHICHETさん とにかく昇降がスムーズで、意匠もとてもきれいです。全体的なレベルが非常に高いと思います。

JOSEさん みなさんの言う通り、やはり他メーカーの製品とは安定性や安全性が違うと思います。メキシコでも自分のつくったエレベーターに乗るたび、三菱電機グループの一員としての喜びと誇りを感じています。  
FEDERICOさん 私も同じく、この会社で働いていることを誇りにしています。今回の大会では、ぜひともMELMEXのレベルの高さを証明したいと思います！

金立人さん 三菱は品質に対する要求が非常に高く、安全面に対して一切

やわらかな雰囲気は好まれ、オフィス用では濃いブラウンに着色された硬質なチタンメッキの内装をよく見かけます。  
姜元求さん みなさんのお国柄によって好まれる意匠は異なるようですが、韓国はとくに意匠面にこだわりが強いと思います。基本は台湾と同じようにブラックやブラウンを基調にしたチタンメッキが人気ですが、照明など細かいところのカスタマイズを希望されるケースが非常に多いですね。また、建設会社ごとに特徴があり、エレベーターの意匠を見ただけでどの建設会社かわかってしまうほどです。

## 乗る人の立場で考えた親切なアイデア

— 日本のエレベーターに乗られて、自国のエレベーターとどんなところに違いを感じますか？  
AUKSONさん 日本のエレベーターは昇降がスムーズで、異音もまったく感じません。安全性が優れていることを肌で感じますね。やはり異音があると事故の不安を感じてしまうので、静かなことは大きな安心感につながります。

RAQUELさん たしかに、こんなに静かなエレベーターはメキシコにはあまりないかもしれません。それと、日本のエレベーターは内装が豪華だと思いました。とくに派手ではないのですが、質感の高さを感じますね。  
王松さん 同じく、揺れの少なさと乗

の妥協を許しません。だからこそ、これだけ優れた製品をリリースし続けられるのだと思います。この徹底した品質管理こそが、三菱のすごさなのではないでしょうか。

簡茂宇さん 技術的な部分ではないのですが、私が新人のころにこんなことがありました。王さんという先輩と一緒に現地調査をしたとき、入社1年目で仕事に不慣れな私は、うっかりスパンをビットに落としました。すると先輩は私を叱ることもなく、黙ってビットに降りてスパンを拾ってきてくれました。両手を真っ黒にした先輩からスパンを手渡されたとき、私は感動して言葉も出ませんでした。このようなやさしい先輩や仲間がたくさんいるところも、私はこの会社の素晴らしさだと思います。

姜元求さん 韓国では意匠にこだわりのあるお客様が多く、中小ビル向けのエレベーターデザインは2〜3年で新しいデザインが発表されることもあり、そのためコストや工期の短さが重視される傾向にあります。ところが、三菱のエレベーターは長く安全に使われることを想定しているため、コストや工期での不利は否めません。にもかかわらず、一度三菱のエレベーターを採用したお客様は、みなさん次も三菱を選んでくださる。このリピート率の高さが、すべてを物語っているのではないのでしょうか。三菱には、今後も品質と安全重視の姿勢を貫いてほしいですね。

